



# 環白山あるもの探し 第一回 勝山 小原編 2005.11.5~6





会場となる、小原地区の道場。  
道場とは、お坊さんのいないお寺。  
この地方独特のもの。



参加者が、三々五々に集まってくる。  
今日は、秋晴れ。天気にも恵まれた。



環白山の事務局員と参加者の談笑。  
話題は、もちろん白山？  
実は、このお茶、  
小原の石垣で栽培しているお茶。  
小原では、秋に摘み、  
フライパンで煎って、お茶っ葉にする。



地元の案内人の方と、  
案内場所等を、最終調整。  
事務局員だけでなく、  
地元の実行委員の方のお陰で  
打ち合わせも、スムーズだ。



地元のおばちゃんによる、  
小原ならではののちそう。  
おばちゃんのかっこうからも  
期待感が広がる。  
雰囲気もGOOD！！



小原のたくさんの種類のきのこ。  
これこそ、秋の味覚！！  
今、この地域ならではののちそう！！



いよいよ、  
あるもの探しのはじまり！！  
事務局員 南さんの  
わかりやすく ためになる  
あるもの探しの秘訣の伝授。



参加者は、久々の授業感覚。  
目が真剣です。  
道場の欄間の見事さにも、  
目を見張ります。



小原の地元実行委員からの、  
参加者に対する挨拶。  
小原の地元住民の、  
小原への思いを語り、  
今回の参加者へ何を求めているか語る。



班毎に分かれ、  
今日のあるもの探しのコースや  
留意点を確認。



小原の地図を前に、  
地元の実行委員も、  
参加者も真剣そのもの。  
既にあるもの探しは始まっている。



小原道場。  
あるもの探し道場と化す。



真剣な打ち合わせの後は、  
お腹が減る。  
地元の心づくしに、みんな夢中。



参加者には、大学生も。  
ごちそうを作ってくれた  
おばちゃんと記念撮影。  
おばちゃんも、楽しそう！？  
それにしても、  
お代わり何杯目！？



この日の、ごちそうは、  
「笹寿司」と「小原風きのこうどん」  
笹寿司の具は、鱒。  
金沢は、鮭がポピュラー。  
鮭の遡上の南限は石川県で、  
九頭竜川には、  
鮭が上がらないからだそうだ。  
食文化も、自然環境の裏打ちが！！



ごちそうを、腹一杯頂き、  
いよいよ、あるもの探しに出発！  
早速、おばちゃんが背負ってきた  
籠に興味津々。  
山で採れる素材で、  
昔ながらの手仕事。さすが！！  
売ってる物とはひと味違う！



あるもの探しの一幕。  
案内人の地元実行委員も、  
いつしか、笑顔に。  
案内の魅力にはまりそう！？



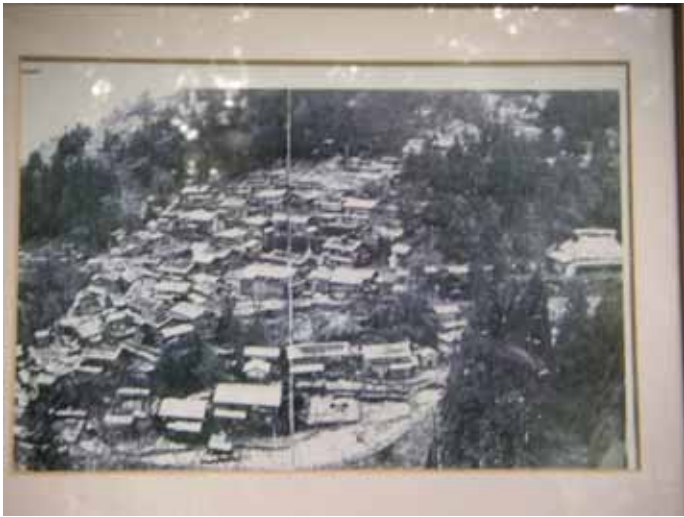
小原のダム。  
ここにだって、  
実は、たくさんのお宝がある。  
それを見つけ、どう活かすか！？



また、一方で、  
人の入り込みが、増加すると  
栽培わさびの盗掘など、  
注意しなければいけないこともある。  
ローカルルール策定も  
同時に進めなければいけない。



小原の古老が、  
昔の写真を持ってきてくれた。  
若い地元実行員にとっても、  
貴重な体験。  
地域の伝承にも、一役買える  
それが、あるもの探しの  
良いところでもあり、  
おもしろいところでもある。



昭和30年代の小原。  
たくさんの家があるのがわかる。  
貴重な、ものだ。



平成17年。現在の小原。  
左の写真との比較だけでも、  
小原の現状が、分かる。  
地元実行委員も、参加者にも  
これからの小原を考える熱が入る。  
現状について  
共通認識を持てるのも、大事な成果。



現場のあるもの探しを終え、  
探した「お宝」を  
地元の実行委員や案内人と  
参加者が打ち合わせしながら、  
資源カードと資源マップに  
整理し、まとめていく。



地元実行委員から参加者へ、  
現場で聞けなかった詳細な話や、  
他にも色々な話を聞いて、  
資源カード作成の  
ヒントにしていく。



資源カードのまとめ方にも、各班の個性や、参加者のものの見方が反映される。そのひとつひとつのものの見方が地元には新鮮で、これからの地域づくりのヒントになっていく。



時には、見解の相違があったり、多くの議論を積み重ねるが、そのひとつひとつが、これからの地域づくりの大事な作業となる。そうして出来た、資源カード。



資源カードの次は、それを利用した、地域活性化のプログラムの作成。議論は、深夜にまで及ぶ。



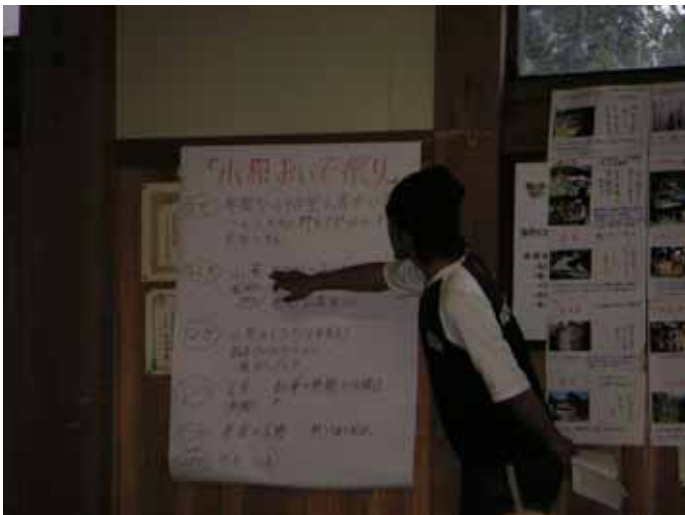
次の日、何気なく、駐車場を見ると、石川、福井、飛騨ナンバー。集まる人も、環白山を、実感！！



2日目、大詰め。  
各班、それぞれの資源カードと  
アイデアとセンスを活用し、  
地域活性化プログラムを  
作成していく。  
わずかな時間で、  
プレゼン資料も用意。



いよいよ、各班の発表。  
班員の参加者を中心に、発表。  
この発表会には、地元の方々を  
呼び、あるもの探しをしなかつた  
方々へも、その成果を還元する。  
地域の人々に、外の人から見た、  
地域を再確認してもらおう、  
重要な時間だ。



各班の熱心な、発表が続く。  
地元実行委員も、案内人も、  
参加者も、地元の人も、  
成果をもとに、  
この地域の素晴らしさや可能性を  
共に感じられる。



乾事務局長の講評。  
会場にいる人の思いが、  
束ねられていく。  
あるもの探しの、ハイライト。



前日、  
お昼のごちそうを創って頂いた、  
おばちゃんも、聞きに来てくれた。



地元の方々。各班の発表を、  
熱心に聞き入ってくれている。  
少しでも、  
地域づくりのきっかけになれば。



南エコツアー担当事務局員より、  
あるもの探し小原編の最終講評。



地元より、最後の挨拶。



外の目と内の目で、地域の「お宝」を  
探し、地域づくりのヒントを探る  
1泊2日のあるもの探しが、終了。  
お疲れ様でした。  
これからは、これをきっかけに、  
地域の活性化や地域づくりを、  
地域住民を中心に、  
環白山協会や環白山の産官学民、  
住民と協働して頑張っていきます。